

研究機関名 果樹試験場栽培部栽培担当
 担当者 森田 泉・久米靖穂・鈴木栄司
 近藤 悟・上村大策

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

台風による落葉、断根などの被害が樹体及び生育、生理に及ぼす影響を明らかにし、回復状況を経時的に把握して復旧対策の資料とする。

○経過と方法

① 試験内容

平成3年、台風9119号の潮風害により落葉の著しかった由利郡西目町（日本海沿岸、海岸より直線距離で2,500m）の‘王林’と倒伏し断根した‘千秋’について被害後3年間の追跡調査を行い、新梢長、着果数、葉面積、葉色（SPAD値）と収穫果について果実重、果径、果実品質について調査した。

② 試験区分

品種名	樹 齢	台 木	落葉程度	断根程度	供試数
王 林	11年生	M.26/マルバ	30%以下	—	3
”	”	”	80%以下	—	3
千 秋	12年生	M.26/マルバ	—	30%以下	4
”	”	”	—	80%以下	3

○技術の要旨

- ① 落葉被害の大きかった‘王林’では被害当年10月中旬から発芽、展葉が見られ、発芽率は31%に達して、翌年の開花率にも影響した。しかし被害2年目から回復の傾向に向かい3年後には回復し生産も安定してきた。
- ② 断根被害を受けた‘千秋’は、倒伏樹の立直し復旧作業が迅速に行われたことから、樹勢及び着果量については被害程度の少ない樹は2年目から、回復の兆しがみられ80%以上の断根樹でも3年目ではほぼ回復して、園地内でも被害の多少による差がなくなってきた。

(2) もたらされる効果

台風被害樹の回復程度が明らかになり、適切な事後対策が講じられる。

(3) 普及対象範囲

県内全域

(4) 普及上の留意事項

特になし

(5) 発表文献等

II 具体的なデータ等

表－1 ‘王林’の台風被害（落葉）程度と樹体の回復

年次	落葉程度	新梢長 cm	葉面積 ＝	葉色 SPAD	着果数 個
平成4年	30%以下	32.2	42.6	42.9	72
	80%以上	21.7	37.7	36.8	66
平成6年	30%以下	28.4	37.5	44.8	85
	80%以上	23.6	56.7	48.6	87

表－2 ‘千秋’の台風被害（断根）程度と樹体の回復

年次	落葉程度	新梢長 cm	葉面積 ＝	葉色 SPAD	着果数 個
平成4年	30%以下	27.1	35.6	40.2	177
	80%以上	20.5	25.5	41.3	92
平成6年	30%以下	27.5	28.8	45.3	143
	80%以上	31.0	32.3	46.2	121

発行年月	9506	キーワード	162
基礎分類	05	キーワード	
作目名	35	キーワード	